

緑の相談所だより

-第38号-

{2, 3月号 1996. 2. 1発行

編集：旭川市緑の相談所}

園芸資材の上手な使い方

用土、農薬、肥料の種類と特徴を
知ろう。

日時 平成8年2月11日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 本郷 仁

定員 60名

洋らん・春の管理

日時 平成8年2月25日(日)
午後1～3時

講師 旭川洋らん会
会長 笠原 幸三氏

定員 50名

講座のお知らせ

お申し込みは
旭川市緑の相談所へ
☎65-5553

家庭菜園

日時 平成8年3月10日(日)
午後1～3時

講師 旭川市園芸センター
所長 佐野 元雄氏

定員 50名

春の庭整理

冬囲いの取りはずし時期
傷害木のなおし方

日時 平成8年3月24日(日)
午後1～3時

講師 旭川市緑の相談所
相談員 小島 博昭

定員 60名

季節の花ことば

スノードロップ・・・慰め、希望

白く愛らしい花がフリフリのように咲く姿を称しています。豆ランプのような花は、日中は花卉を開きますが日が落ちると閉じる性質があります。エデンの国を追われたイブの涙から咲いた花ともいわれています。



間 違 い だ ら け の 植 物 い じ り

折れた枝や幹はもとにもどらない。

折れてしまったものは枯れてしまうと思いつててしまう方がほとんどと思いますが、折れた部分が乾いた状態でなければ、折れた部分をもとにもどし、ビニールテープ、シュロ縄、副木などをつかって被害箇所を固定すれば、樹木の細胞がゆ合してもとの状態にもどるものです。ただしこの場合の条件として被害部位の形成層と形成層が接着していなければなりません。（別ページ参照）

春（3月～4月上旬）は剪定の時期、庭木類すべて剪定の時期である。

植物を管理する上で大事なことは、楽しんで見ようとする植物の特性（植物が生育するための生理的条件、適応性など）を知ることが第一条件で、作業するためには必ず適期があります。この条件を無視すると枯れてしまったり、花がつかなくなったり、生育不良の時期がつづいたりする結果になります。

春の剪定は、針葉樹類の強剪定（枝抜き剪定）や果樹類（ブドウは除く）の剪定だけと思って作業することです。

特に春先、樹液の流動がさかんにおこなわれるカエデ類、カバ類、ニレなどの広葉樹類は絶対にいじれませんし、果樹類のブドウも同じです。

このような樹種群は秋、完全に落葉して休眠期に入ってからか、夏、植物の生育が一時的に休止する時期（8月中旬頃）の一週間くらいの時期におこなうようにします。

◆◆◆ 庭木類を雪の被害や寒さの害から守るために ◆◆◆

今年の春は寒いとも雪どけがおそいともいわれています。

庭木類を楽しむためには、このような予想はあたらな方が良いのですが、時として被害にあうこと（雪害、寒さの害）がありますし、越冬で消費する貯蔵養分のことを考えると、庭木類を各種の被害から守ってやるのが、秋～春までの大切な庭仕事です。

雪による被害

冬期間、枝、葉につもった雪は出来るだけ早く落としてやるようにします。特に3月に入ってから雪は枝、葉に凍りつき、その上に湿雪がつもると枝折れ、枝抜け、幹折れ、の被害原因ともなりますので特に注意して落としてやるようにします。

屋根からの落雪には特に注意を払い、庭木類をこの種の被害から守る方策を講じることが大切です。

被害木の処置の仕方

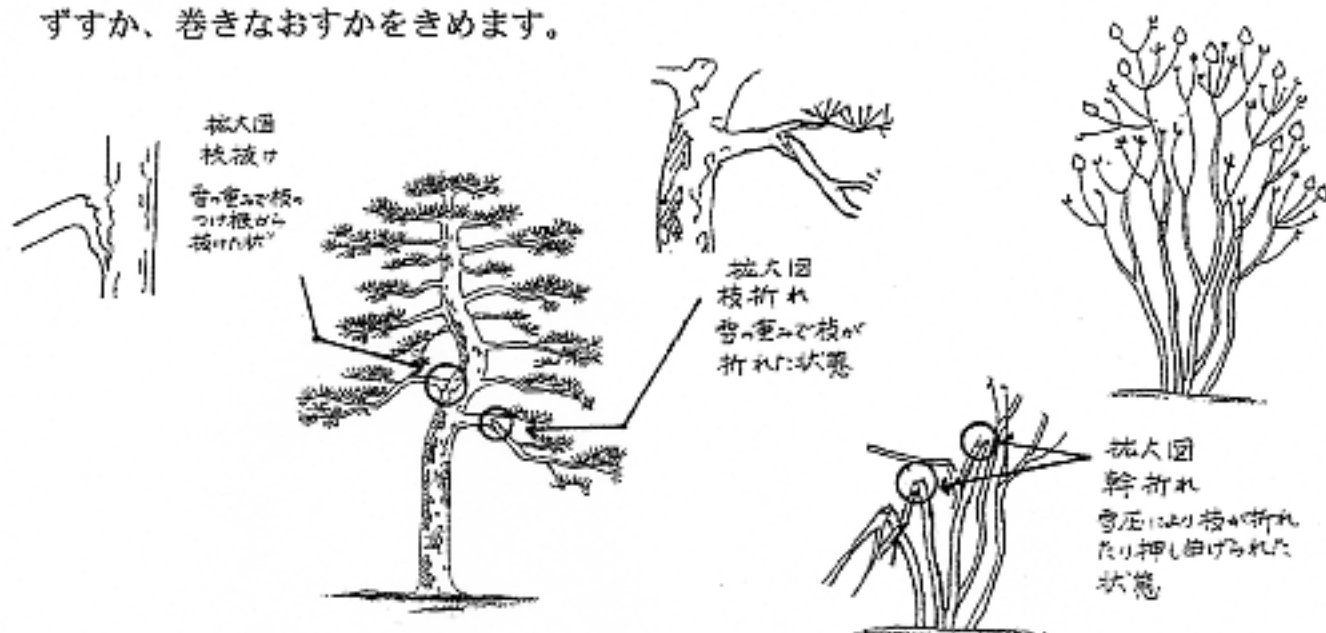
①表皮あるいは木質部の途中で折れたものは被害箇所が乾かない早い時期に折れた部分をもとにもどし、ビニールテープで固定し、更に副え木で固定します。

副え木をしても耐えられない状態のものは、枝を吊るか、台を使って固定します。

②枝あるいは幹が完全に折れてしまい、木全体から離れてしまったものは枝本体の折れた部分と折れてしまった枝の折損部分を削り、つなぎ合わせてビニールテープで固定し、さらに副え木で固定し枝を吊るか、台を使って固定します。

※①～②の手法は、つぎ木の要領ですので、つぎ目の部分は形成層と形成層が接着、接合していないと細胞のゆ合は不可能になります。

処置後は被害箇所が軽微なものは秋までにビニールテープ、副え木などをはずしますが太い枝、幹や脱落した枝、幹を処置したものは来春までそのまま置き、状態を見てはすずか、巻きなおすかをきめます。



2月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・特に作業はありませんが、カタログなどで種苗選びなども楽しいもの。
- * 鉢花・・・全般的には1月と同じ管理ですが、日差しが強くなってくるので中～下旬には窓際の鉢物の葉に日焼けの心配がでてきます。小温室やハウスでは日除けや換気が必要になります。シクラメンは咲き終わった花の花梗を取り除き、追肥をして光に当ててやるとまだまだ咲き続けます。プリムラ、シネリリアなどの鉢物も出回ります。よく光に当てながら涼しい環境に置き10日に一度は液肥をあたえてやります。無理して時期外れの花を咲かせた室内の花木類は、花が終わったら新芽の動かないうちに寒い場所に移して春を待ちます。寒さに遭わせていたクンシランは涼しい部屋か玄関のようなところへ移し2～3週間管理します。
- * 観葉植物・・・鉢花と同じように中～下旬は強い光で日焼けが心配です。特に部屋の日の当たらないところに置かれていた鉢は注意が肝要です。1月の管理に準じます。
- * 洋蘭・・・来月にかけて冬咲き種、品種の開花最盛期に入ります。日差しが強いときは窓ガラス越しでは日差しが強すぎる様になります。レースのカーテン越し程度の光線が適度です。ファレノプシス、パフィオペデルムでは空気中の湿度を保つこと。夜間の温度が低くなり過ぎないように最低温度の維持に注意します。開花期間の長いシンビジュームやパフィオペデルム等は極端な水切れは禁物。カトレアの二重シースは外側のシースを裂いてやると良い。バルブ伸長中の株は10日に1回位の液肥を追肥する。
- * 盆栽・・・室内での鑑賞は低い温度で、5℃を超えると樹木の根の活動が始まるので、室内での鑑賞は上旬くらいで取り止めた方が安全。ムロの中は2週間に一度は覗いて乾きに注意。

3月の園芸作業

- * 露地・花壇・・・雪融けが進むと下旬には土が顔を出します。冬の間考えていた花壇のデザインに合わせて春播き草花の種を選んだり、温度が保てればテランセラなどの挿し芽も始めます。庭の花畑に木灰や融雪剤等を撒いて雪を早く融かす方法は感心しません。花畑は自然に雪が融けて、徐々に春を迎えることが出来るようにしましょう。
- * 鉢花・・・窓から射し込む日の光も強くなり、日中は暖房が要らなくなる日もあります。小温室では温度が急に上昇するので換気はこまめに。新芽が伸び始めますが光線不足の所で徒長したり、冬の間姿が崩れたりしているものは花芽が付かなかったりするので、切り返しをして新しい芽を伸ばします。ゼラニウム、ペゴニア等の草物やハイビスカス、ブーゲンビレア等花の咲くものに有効です。灌水の回数も多くなってきますが、午前中に乾いた鉢にたっぷりやって後は乾いたらやるという鉄則を守ります。部屋の温度が日中15℃以上、夜間10℃以上あれば株分け、植え替えができます。冬囲いで外の土穴に入れてあるものは、雪融水が溜まることがあるので注意。クンシランはそろそろ蕾が上がる頃です。室温の急激な上昇と鉢内の乾燥に注意します。
- * 観葉植物・・・次第に環境が良くなってきます。日焼けしない程度で強い日光に当て丈夫に育てます。鉢花と同じ条件で株分け、植え替えができますが不安な場合は5月になってから行います。下旬になったら追肥をします。
- * 洋蘭・・・冬咲き種も次第に花の盛りが過ぎてきます。花を早めに摘んで株を弱らせないように、特にシンビジュームは花梗を切り取って新芽の活発な成長を促さないと来年の花は期待できません。室温が最低13℃以上あれば花の来なかった株、花の終わった株で株分けや植え替えが出来るが、新芽が成長を始めた頃が適期。株分けの条件が悪いときには鉢の中で茎に鉄を入れておき鉢の中で分けて置きます。この場合バルブが最低3個以上ついていることが条件です。暖かい日中には外気を入れ、日焼けをさせないように注意します。
- * 盆栽・・・秋に用意のしてあった用土、鉢などの点検をします。下旬には落葉樹類の植え替えが出来ます。室の温度上昇に要注意です。落葉樹の針金かけは中旬から来月の中旬迄に終わらせます。土の中に冬囲いした鉢は、天気の良い日中覆いを少しすかしてやりますが、穴から出すのは曇りか雨の風のない日が適当です。